

## 中央大学附属中学校



2010年4月、中央大学附属中学校が開校した。武蔵小金井の中央大学附属高等学校に併設された同校は、本学初の中学校で、男女共学、1学年の定員は150人である。

09年11月に学校設置が認可され、同月、校舎の竣工式が挙行され、初代校長には附属高等学校長の三枝幸雄法学部教授が就任した。

事前の説明会・見学会などにより人気も高く、競争の激しい入試を経て、男女合わせて168人の第1期生が誕生し、6クラスの少人数教育が行われている。

附属中学校の開校により、中高大の一貫教育が可能となり、中央大学の基幹学生となり社会有為の人材となる生徒の育成を目標としている。

自主・自治・自立の精神を尊重する自由な校風のもと、教育の特徴として、3年間で合計60冊を読む課題図書の設定、社会の授業をもとに実際に街を歩き不思議を解き明かすという1日の周遊旅行＝ワンデーエクスカッション、週1回クラス全員で同じメニューで食事をするスクールランチによる食育に加え、プロジェクト・イン・イングリッシュ、プロジェクト・イン・サイエンスなど体験重視の英語教育、科学教育を挙げている。